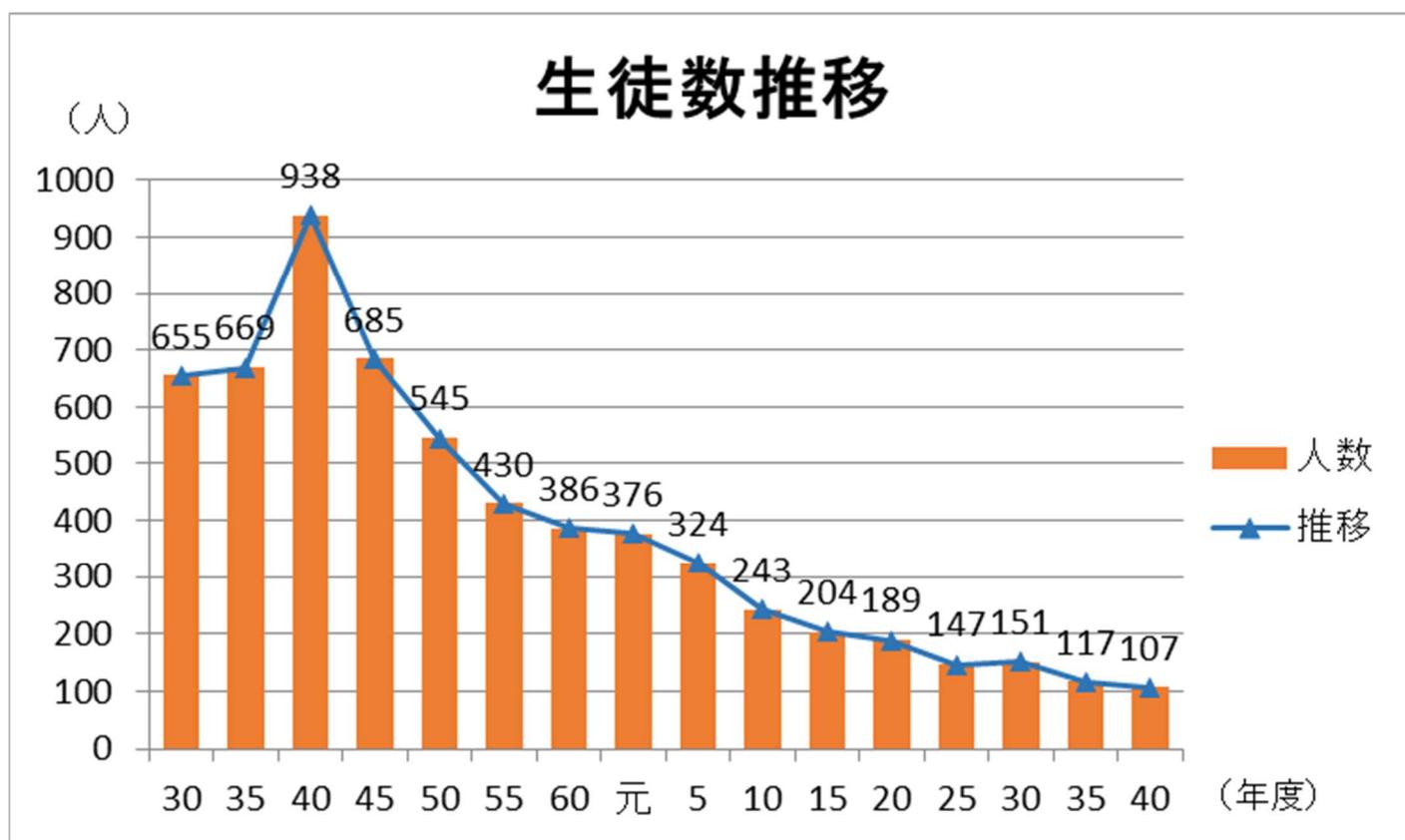
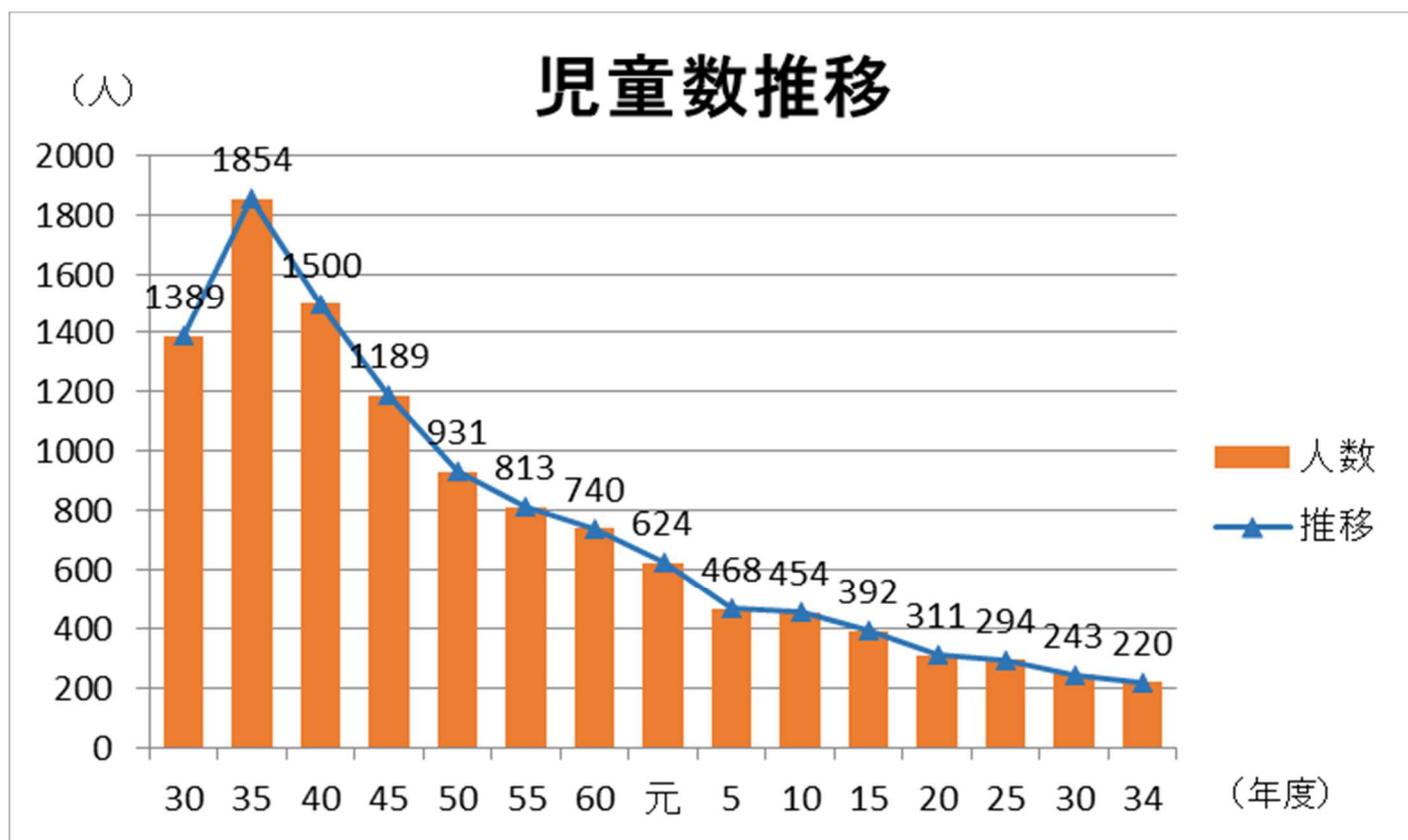
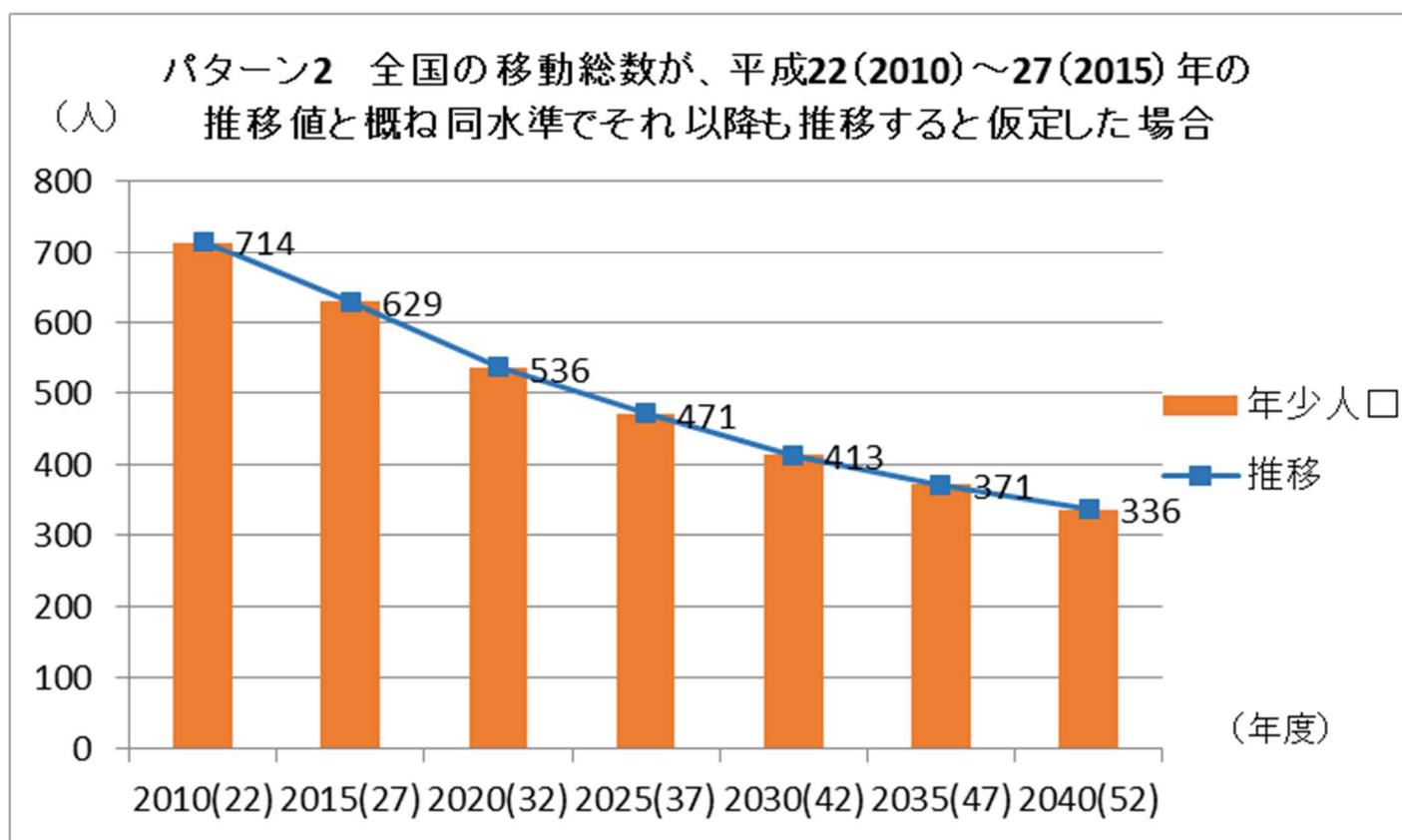
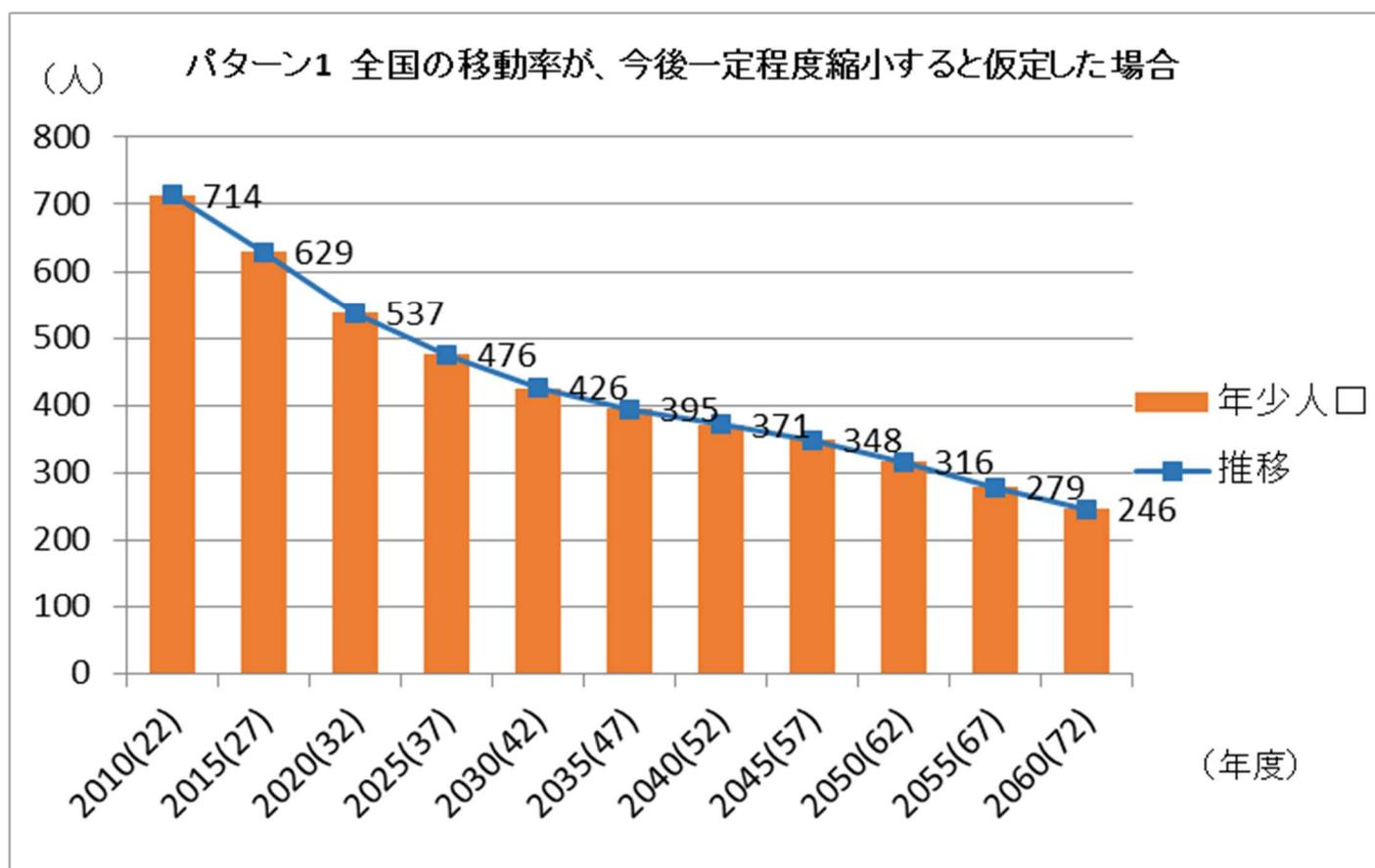


— 資料目次 —

別紙 1	児童生徒数の推移・出生数・村の人口ビジョン・・・・・・・・	1
別紙 2	「生きる力」を身に付けた九戸村の子どもたちの将来像・・・	3
別紙 3	小規模校のメリット・デメリット・・・・・・・・・・・・・・	5
別紙 4	村内各小学校間距離等配置図・・・・・・・・・・・・・・	6



「九戸村人口ビジョン」から見る年少人口の推移



ふるさと「くのへ」を思い、 夢に向かってはばたく人

- ① 自ら考え、共に学び、高め合う子 (知)
- ② 人を大切にし、想像力が豊かな子 (徳)
- ③ 自ら健康で、たくましい心を育む子 (体)

『ふるさと「くのへ」を思い、 夢に向かってはばたく人』

- ・九戸村に誇りを持ち、ふるさとを大切に思う人
- ・九戸村の歴史や文化、自然環境や産業等について学ぶことを通じて、人の営みを感じ、自分も地域のために何ができるかを考えようとする人
- ・未来に「夢」を広げ、その実現に向け「くのへ」で学んだことを基に歩いていく人

① 自ら考え、 共に学び、 高め合う子 (知)

- ・問いを見出し、見通しをもって学習に向かい、自らを振り返る子ども
- ・自分の考えを表現し、他者と切磋琢磨しながら見方・考え方を広げ、問題を解決していく子ども
- ・広い視野を持ち、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を身に付けた子ども

② 人を大切にし、 想像力が豊かな子 (徳)

- ・自分や家族、友だちなどの「人」の「命」「心」「体」を大切にする子ども
- ・自分の考えと共に、他者の意見にも耳を傾け、尊重しながら物事を進めていくことができる子ども
- ・相手の気持ちを想像できる思いやりをもつ子ども
- ・将来に向けた「夢」を大きくもち、実現に向けて生きていくことができる子ども

③ 自ら 健康で たくましい心を 育む子 (体)

- ・自らの健康を考え、生活をしていく子ども
- ・困難に直面しても、最後まで粘り強くやり遂げる子ども
- ・自らの役割に意義を見出し、責任をもってやり抜く子ども

「生きる力」を身に付けた九戸村の子どもたちの将来像

ふるさと「くのへ」を思い、 夢に向かってはばたく人

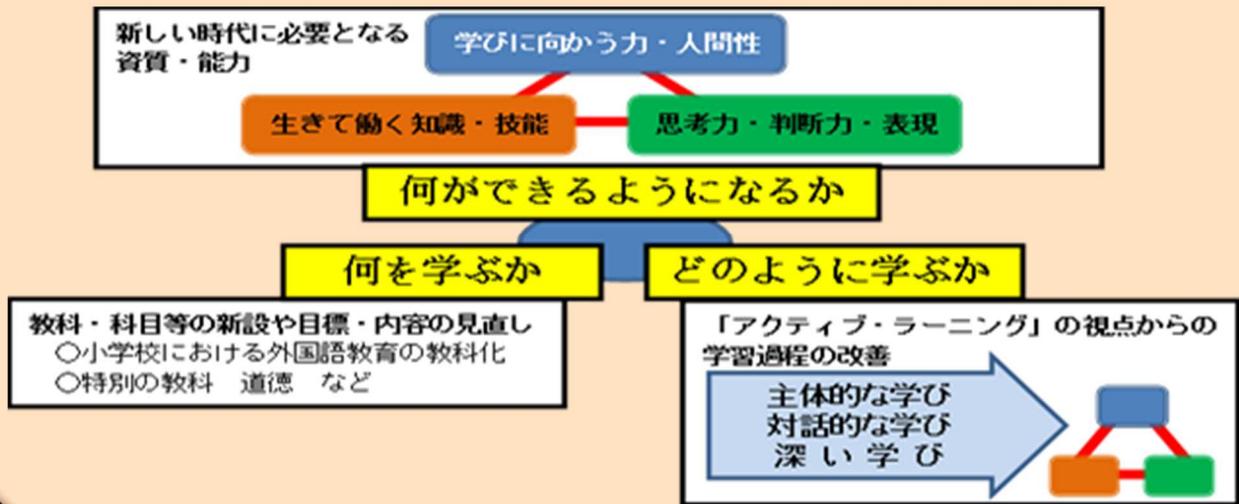
- ① 自ら考え、共に学び、高め合う子 (知)
- ② 人を大切にし、想像力が豊かな子 (徳)
- ③ 自ら健康で、たくましい心を育む子 (体)

ふるさと「で」学ぶ
ふるさと「を」学ぶ

ふるさと「くのへ」キャリア教育
ふるさと「くのへ」地域学習

ふるさと「で」学ぶ
ふるさと「から」学ぶ

新学習指導要領における学びの方向性



5つの教育課題

- ① 中1ギャップへの対応
- ② 特別支援教育の充実
- ③ 学力保障・質の高い授業
- ④ 教職員間の相互連携
- ⑤ 英語教育の充実

I 基本的な力

子どもに付けさせたい力

II 高次の認知能力

III 対人関係形成力・社会的能力

IV 人間的自立・生き方

小規模校のメリット・デメリット

二戸地区校長研究大会 少人数、小規模校のメリットとデメリットの整理

九戸村小学校校長会

	メリット	デメリット
児童の学習面	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の学習状況や学習内容の定着を的確に把握できる。 ○個別指導など個性や特性に応じたきめ細かな指導を行いやすい。 ○意見や感想発表などができる機会が増える。 ○個々の能力や適性を伸ばしていきやすい。 ○学校全体で児童生徒の掌握が容易である。 ○クラス替えがなく、互いの関係を深めていく学級づくりをしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●集団規模が小さい体育の球技、音楽の合奏、合唱の集団学習の実施に制約が生じる。 ●運動会・遠足・修学旅行等の集団活動の活性化が難しいことがある。 ●話し合い活動や協働作業的な活動で、学習内容の深まりや広がりが難しい。 ●多様な発言を引き出しにくく授業展開に制約が生じる。
児童の生活面	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人がリーダーを務める機会が多くなる。 ○異学年交流を重視した教育活動により全校的な児童の交流が深まりやすい。 ○郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい。 ○家庭状況、地域の教育環境などを把握しやすい。 ○保護者と地域が連携した効果的な生徒指導ができる。 ○児童が互いによく知り合え、全校の児童・教職員の一体感が深まりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学級のルールや児童の中の価値観や人間関係が固定化されやすい。 ●多様なものの見方、考え方を学ぶこと、そこから自らが新しいルールや文化、人間関係を作り上げようとする機会が少なくなることがある。 ●教員と児童との心理的な距離が近くなりすぎる。 ●人間関係上の問題等が発生した場合に、問題の解消が難しいことがある。 ●生徒指導上、課題がある子供の問題行動に影響を受けることがある。
学校の運営面	<ul style="list-style-type: none"> ○教員相互の連絡調整、連携がとりやすい ○教育目標や教育活動に一貫性をもたせやすい。 ○教材教具等を一人一人に行き渡らせやすい ○教室、体育館、校庭などに比較的余裕があり活用しやすい。 ○校外行事場の場所の選定、活動内容や安全面での制約が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●複式、単学級では一人の教員で学級を経営することになり、指導計画、評価計画、教材研究等の全てを個人作業で行うことになり、負担が大きい。 ●共同研究が難しく、教員相互の連携や切磋琢磨する機会が少なくなることがある。 ●校務分掌や地域社会との連携、教育委員会等への調査報告等で、教員一人当たりの役割が相対的に多くなる。 ●緊急対応時や学級経営に問題が生じた場合等、他の教員による支援体制を構築することが難しくなる。 ●複式学級の場合、直接指導と間接指導を組み合わせた指導が必要となり、教員に特別な指導技術が求められる。

